

営農ウィークリーNEWS

雑煮大根が出荷最盛期を迎えました！！



今年も残すところ、あと4日になりました。乙訓支店管内では、関西地域のお正月に欠かすことのできない「雑煮大根」の出荷が最盛期を迎えています。

●雑煮大根とは？



お正月に輪切りにして雑煮に入れて食べる大根です。別名「祝大根」とも呼ばれ、角が立たずその年を円満に過ごせますようにという思いが込められています。出荷規格は直径3センチ・長さ13～25センチとなっていますが、このような出荷規格に合うように栽培するには非常に難しく長年の経験と高度な技術が必要とされます。

今年は、約5万本の出荷が行われ、市場を通じて主に関西の量販店で販売されます。



雑煮大根の出荷現場の様子



—TAC information—

**2022年肥料・農薬予約申込
締切は1月14日です！**



昨年に引き続き、2022年産水稻の高品質安定栽培に向け、JA京都中央では、生産農家の皆様への支援対策として、ウンカ類・ジャンボタニシ・カメムシ類の防除における農薬購入費の一部に助成を行うこととなりました。この予約書でのお申込みいただいた分のみ対象となりますので、お申込み漏れのないようお気を付けてください！
申し込み締め切りは、2022年1月14日です！
よろしくお願いいたします！

今年も、一年間ありがとうございました。

来年も、様々な情報を皆様にお届けできるようにいたします。よろしくおねがいいたします！



ジャンボタニシ被害を防ごう！

1980年代に食用目的で日本に導入されたスクミリンゴガイ(通称ジャンボタニシ)は野生化し、基本的に柔らかい葉を好んで食べ、移植直後のイネで食害による欠株の被害が発生しています。

被害状況の特徴ですが、田植え後20日までのイネが柔らかい時期に集中しており、水温が高くなるほど活動が活発になり被害が増加します。また、深水になる田面の低い箇所やマクラ周辺に被害が目立ち、大型になるほど食害量は大きくなります。

被害を防ぐ3つのポイント

- ◆ 広げない(越冬個体を少なく)
- ◆ 入れない(圃場への侵入を防ぐ)
- ◆ 食べさせない(稲に寄り掛かれない)



ジャンボタニシの成貝



食害による欠株



産み付けられた卵塊

今後の具体的な被害対策

- ① 冬期に速度ゆっくり回転早目に耕うんし、物理的に貝を破碎したり、殻を傷つけ寒さの耐性を低下させ貝を減少させる(2cm以上の貝は1回で7割近くが破碎する)
- ② 寒さに弱い、土中、用水路等で一部越冬するため用水路の泥上げ、エサとなる雑草の除去、水田の落水、用水マスの貝の除去を行う
- ③ 貝は水中でしか稲を食べることができないので、来年は水深4cm以下の浅水管理を行う

オススメ薬剤「スクミン」

2021年1月14日(金)まで
肥料・農薬の予約を受け付けてお
ります。ぜひご利用下さい！



上記のような対策を行っても、スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)被害が発生してしまう場合があります。

また、一旦発生してしまうと、すべてを駆除することは非常に困難で毎年被害が発生してしまう可能性が非常に高くなります。その場合には、薬剤での防除をオススメします。

毎年被害が発生する場所では、移植直後や被害発生前に散布して下さい。

